

自分のセッションではいつもの話のバリエーションみたいな話を披露した。一つ一つの陽子さんのコメントについては自分でも気づいていたのだけれど、全体としてみたら「あっそうだな」と腑に落ちた。

確かに私は相手について「気づくと思いますかね？」と聞いたものの多分気づくことはないんだろうな、気付いたとしても数年先とかそんなものだろうな、という感覚は持っていたが（案の定陽子さんの返答も気づかないと思う、だった）、気づくきっかけってそれなら存在するのだろうか？という疑問は残っていた。

ただ、陽子さんが気づかない理由について「コミュニケーションが成り立っているから」と言われ、確かにコミュニケーションの細部を見れば全然成り立っていないのだけれど、周りの人がその訳のわからない会話を理解してあげようとしてしまっているのだから本人にはコミュニケーションを取れていないことに気付いていない、とコメントをもらった。確かにその通りだなと思った。全くわからない、とみんな言っていない。わからない、と言われても別の人を探して〇〇さんならわかってくれますよねえ！？って聞いているのをしばしば見るので、そういった退路を完全に断たないと難しいな、と思った。翌日会社の人にも伝えたところ確かにそうだ、という返答だった。

他に印象的だったのは女性だから～のステレオタイプを持ち込むセッション。

以前のコーチング練習会で陽子さんは別の人のお題で似たような内容を扱っていて、それと流れは一緒だなと思った。

確かその時も、クライアントの思う気持ちを受け止めてから一般論としてそういうものが存在する+コーチの意見をいう、

相手にも事情があるのかもしれないという方向に話を向けるという流れに持って行っていったと思うのだが、ここのコーチの意見の言い方というのがうまいものだな、と思った(当然っ  
ちや当然なのだが)。私にとってはこの匙加減が難しくって、  
コーチが強くいすぎると「そんなことありませんっ」とそっぽ  
を向いてしまうようなことを恐れている。その練習はアドバン  
スドでそういう場面に遭遇した時に試してみたい。

(30代女性 千葉県)